

函館市立大森浜小学校、函館市中央図書館の取組

○学校と公立図書館が連携した授業づくり 図書館司書、学校司書との連携

大森浜小学校では、第3学年国語科の「ことわざ・慣用句」の単元において、単元の指導計画に、図書資料を活用して自分の調べたいことわざ・慣用句を調べ、発表する言語活動を位置付け、児童が多様な情報から自分の考えをまとめることができるよう、中央図書館と連携を図り、学習環境を整備しました。

授業づくりに当たっては、児童が豊富な図書資料をもとに主体的な学習ができるようにするため、中央図書館や近隣校から図書資料の提供を受けました。児童は、一人2冊以上の図書資料を手元に置き、黙々と慣用句を調べる学習に取り組む姿が見られました。

また、児童が調べ学習を行うに当たり、目的に応じて適切に選書を行うことができるよう、授業者、学校司書、中央図書館司書が連携して授業を進めました。中央図書館司書から日本十進分類法などの配架の説明や選書する際の助言を児童が受け、必要な情報を集めることができるよう支援しました。授業実践に当たっては、授業者と学校司書、中央図書館司書が授業の構想や活用する資料などについて共通理解を図り、効果的な指導を行うことができるよう本時案に児童への「支援の手立て」を位置付けるとともに、丁寧な打合せを行いました。



中央図書館司書から日本十進分類法についての説明



児童が中央図書館司書から助言を受ける様子

3 本時案 (3/4 時間目)

(1) 本時の目標
図書資料をもとに、必要な情報を集めたり、出典を明らかにしながらまとめることができる。

(2) 学習活動

	学 習 活 動	評 価 ■教師の関わり
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習をふりかえる。 ・「慣用句とはどんな言葉か」「どんな種類があるか」 ○今日の学習内容について確認する。 ○本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> □【学びに向かう力】「言葉がもつよさ」を学ぶよう意欲的に学ぶようとしている。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○「慣用句のクイズを作る」ために「本をさがすにはどうしたらよいか」考える。 ・分類番号で・係(司書)の人に聞く・検索を使う ○では、「中央図書館に行って本を探すなら」という視点で中央図書館司書と共に、映像を確認する。 ・書架の分類では?・調べても見つからない時は・調べたい本を実際に借りるには ・慣用句の本は一人一冊 ・慣用句、ことわざ、ことばの本も一冊 → 合わせて 一人2冊 ○慣用句の本をまず一冊かりてじっくり読む。 ※すぐ調べ始めるのではなく、じっくりいろいろな慣用句をながめさせ、自分が気に入る慣用句を見付けさせたい。 ○自分が気になる慣用句が載っているページにしおりをはさむ。 ○クイズの作り方を全体で確認する。 ①えらんだ慣用句を書く。 ②その慣用句の意味を調べて書く。 ③4つの答えを考える(3つは、うそを考える) ○調べて分かったことを「慣用句クイズカード」に記入する。 ※クイズの作り方は、全面スクリーンに投影し続け、困り感のある児童の補助になるようにする。 ※早くできあがった児童には、プリントの裏に「なぜ、その慣用句を選んだのか」の理由を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■中央図書館司書よりDVDで解説してもらおう ■慣用句に係わる本を探しに行くとき混雑しすぎないように配慮する。 ■図書館資料をもとに、必要な情報を集めようとしている。 ■全面のスクリーンを使い、全体で確認する。 ■資料が見つけられずにいる児童には、リファレンスを行う。(担任、学校司書他)

学習活動における児童への支援の手立てを明示し、授業者、学校司書等と連携して指導できるように工夫